

# ユニバーサルデザインに関するアンケート調査

平成20年2月 山梨県企画部企画課

## 1. 調査の概要

### (1) 実施時期

依頼 平成19年9月26日 回答締切 平成19年10月9日

### (2) 回答数

371件

(内訳 一般モニター：288、インターネットモニター：83)

### (3) 回収率

依頼数 464

(内訳 一般モニター：356、インターネットモニター：108)

回収率 80.0%

### (4) 調査方法

一般モニター : 調査票を郵送

インターネットモニター : 調査事項を電子メールにより送信

### (5) 調査項目

回答者ご自身について質問した後、ユニバーサルデザインに関連する14の質問を行いました。

Q1からQ13は選択肢による回答、Q14は自由意見による記述をお願いしました。

SA (シングルアンサー) 回答数を1つと限定した質問

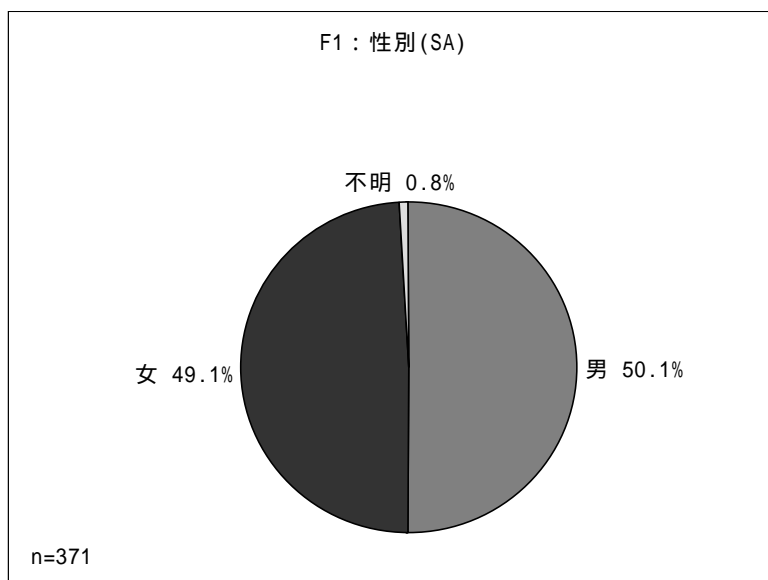
MA (マルチアンサー) 複数回答の質問

調査結果の概要は次のとおりです。

## 2. 調査結果

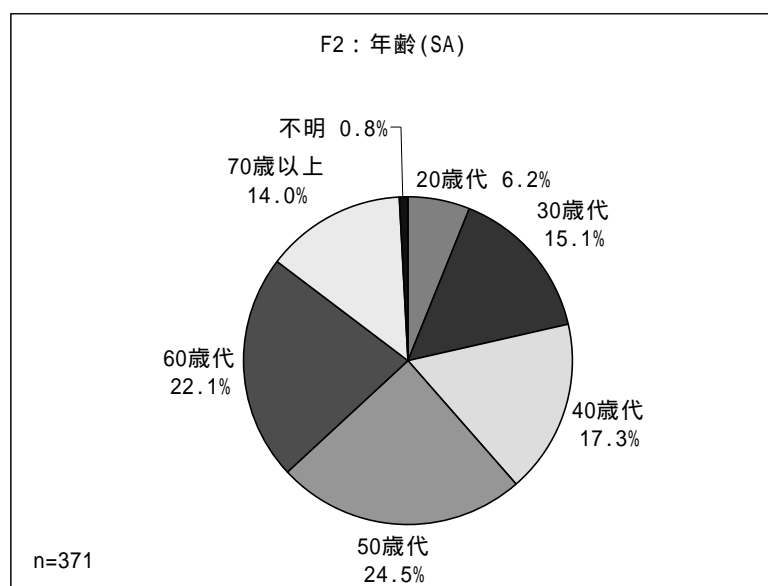
### F 1 : 回答者の性別

性別は、男性が50.1%で、女性が49.1%となっています。



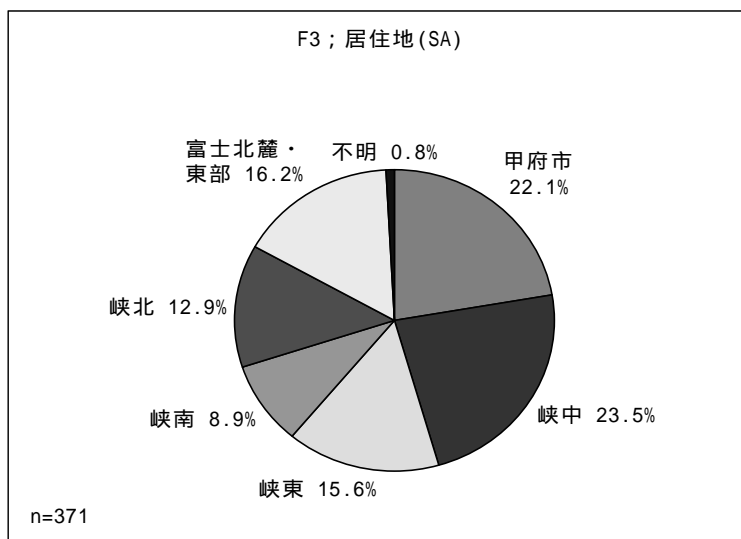
### F 2 : 回答者の年齢

年代は「50歳代」が24.5%と最も多く、次いで「60歳代」(22.1%)、「40歳代」(17.3%)となっています。



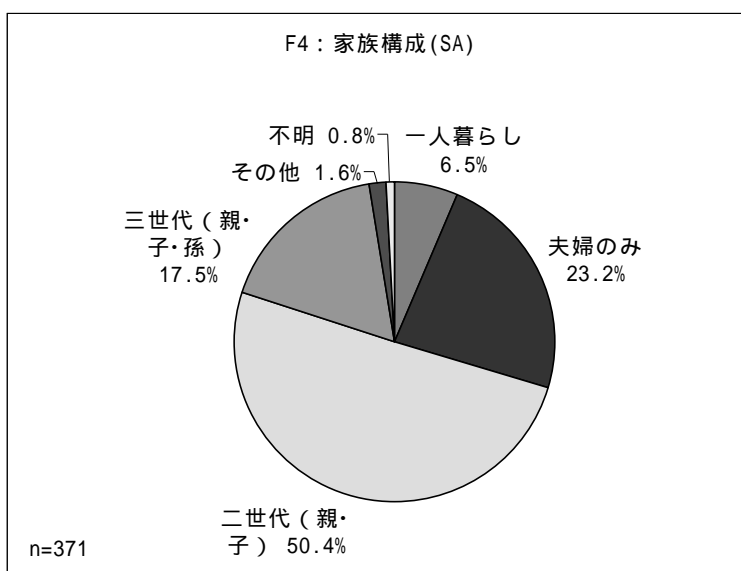
### F 3 : 回答者の居住地

居住地は、「峡中」が 23.5%と最も多く、次いで「甲府市」(22.1%)、「富士北麓・東部」(16.2%)となっています。



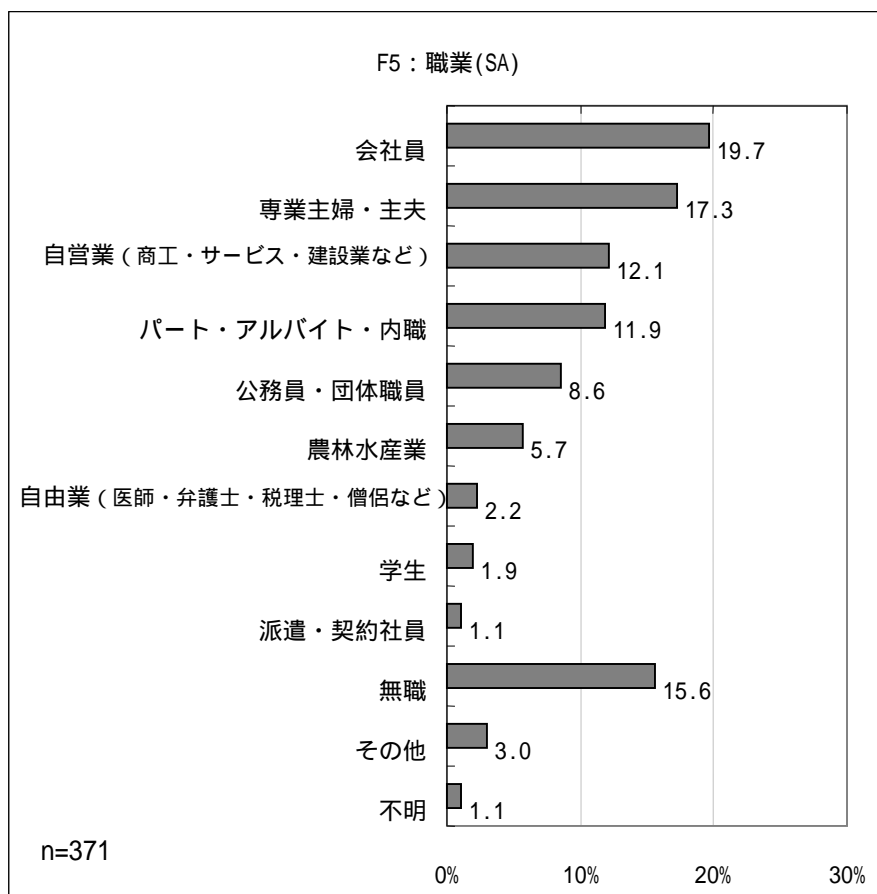
### F 4 : 回答者の家族構成

家族構成は「二世代（親・子）」が 50.4%と最も多くなっています。



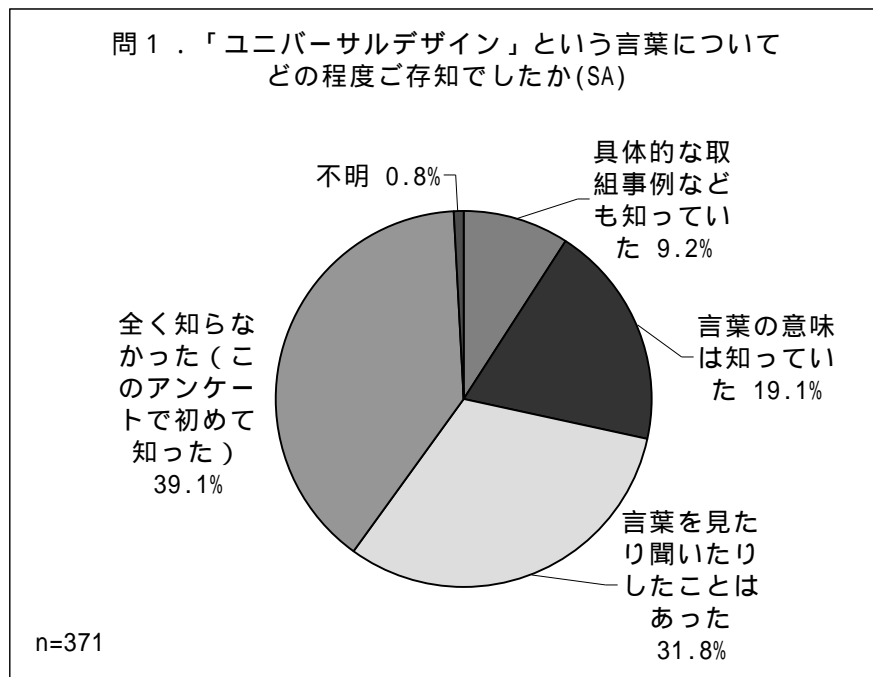
## F 5 : 回答者の職業

職業は、「会社員」が 19.7%と最も多く、次いで「専業主婦・主夫」(17.3%)、「無職」(15.6%)となっています。



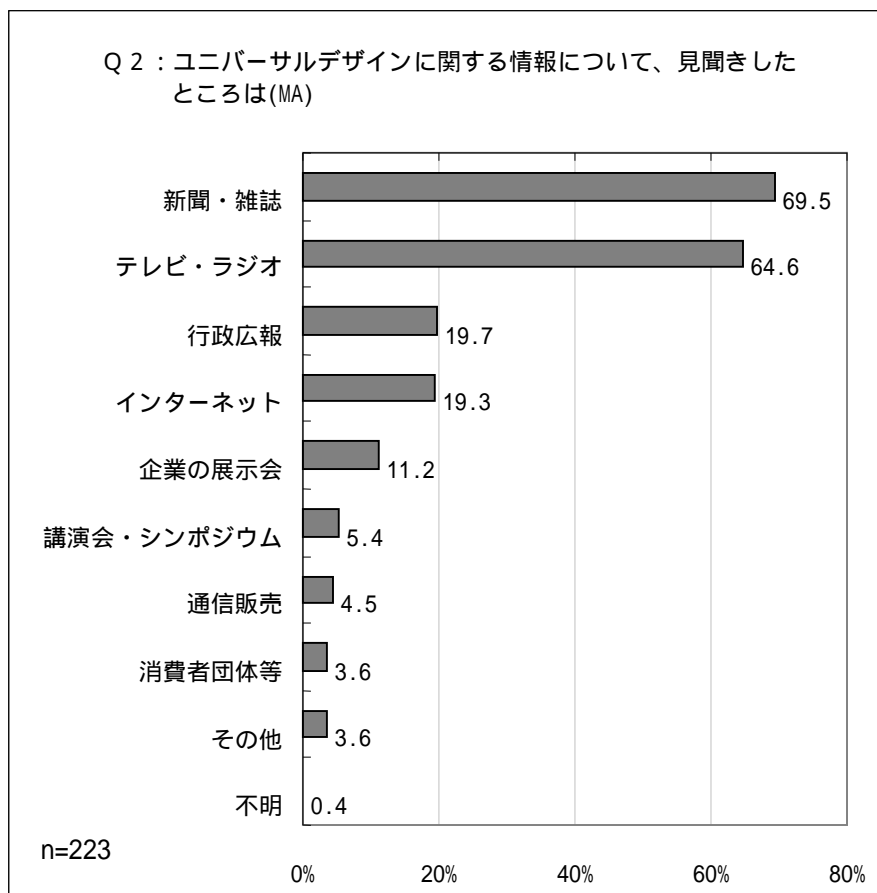
Q 1 : 「ユニバーサルデザイン」という言葉について、どの程度ご存知でしたか

ユニバーサルデザインの認知度については、「全く知らなかった」が 39.1%と最も多く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはあった」(31.8%)、「言葉の意味は知っていた」(19.1%)となっています。



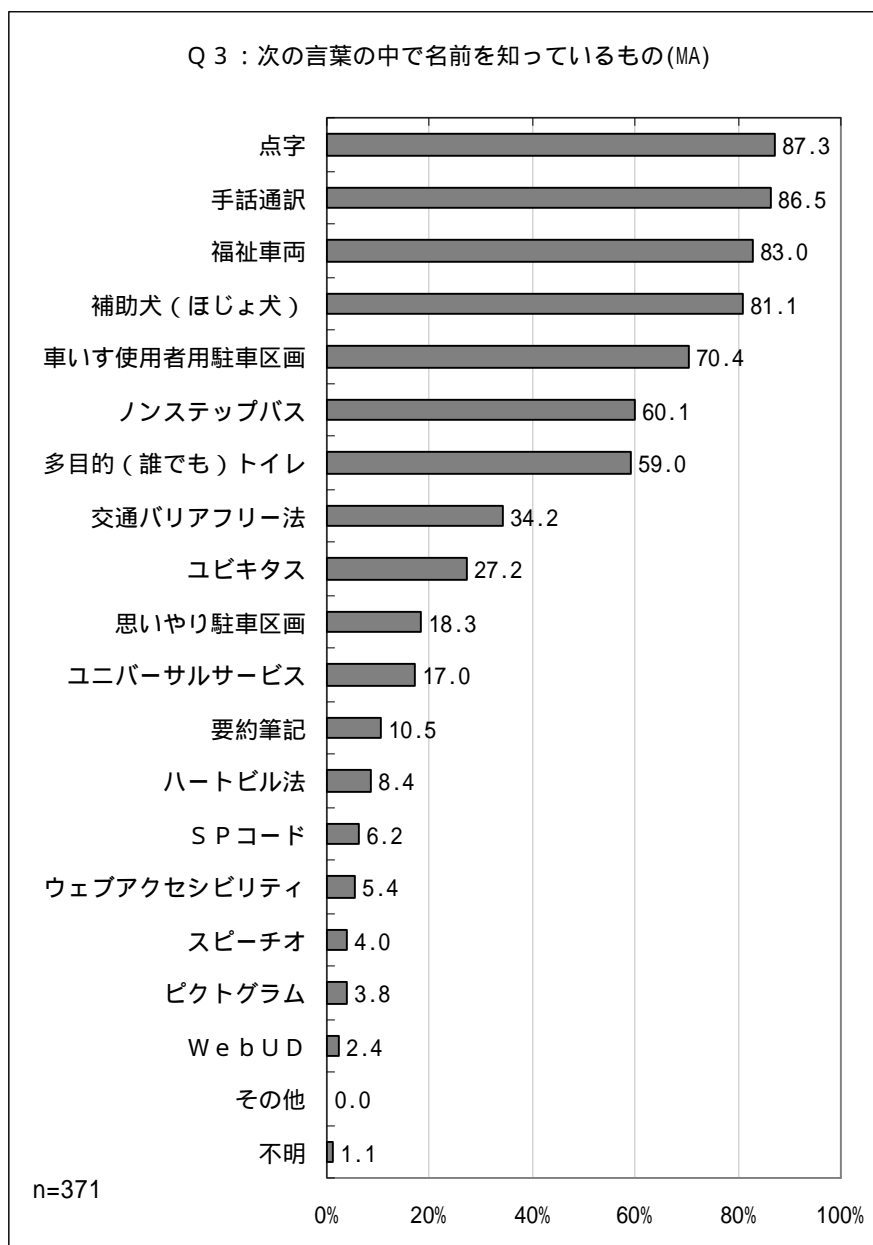
## Q 2 : ユニバーサルデザインに関する情報について、見聞きしたところは

ユニバーサルデザインに関する情報の入手先については、「新聞・雑誌」(69.5%)、「テレビ・ラジオ」(64.6%)が半数を超えています。



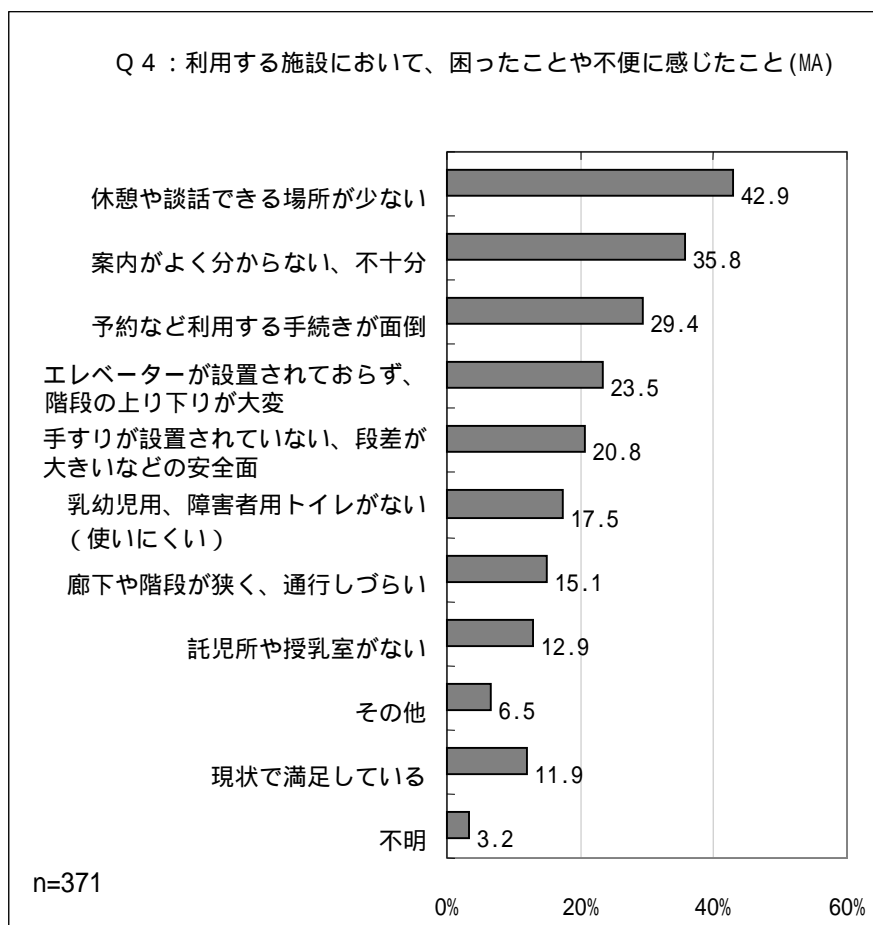
### Q 3 : 次の言葉の中で名前を知っているものは

ユニバーサルデザインについて、名前を知っているものでは、「点字」(87.3%)、「手話通訳」(86.5%)、「福祉車両」(83.0%)、「補助犬」(81.1%)が8割を超えています。



#### Q 4 : 利用する施設において、困ったことや不便に感じたことは

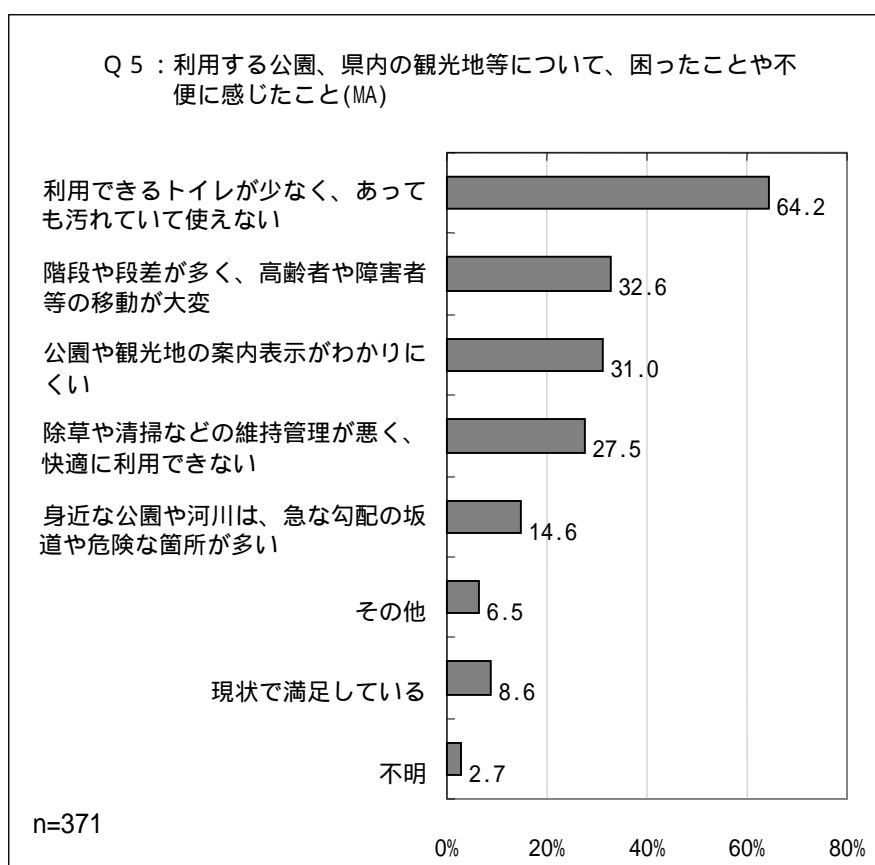
利用する施設で困ったことや不便に感じたことでは、最も多いのが「休憩や談話できる場所が少ない」(42.9%)で、次いで「案内がよく分からない、不十分」(35.8%)、「予約など利用する手続きが面倒」(29.4%)となっています。





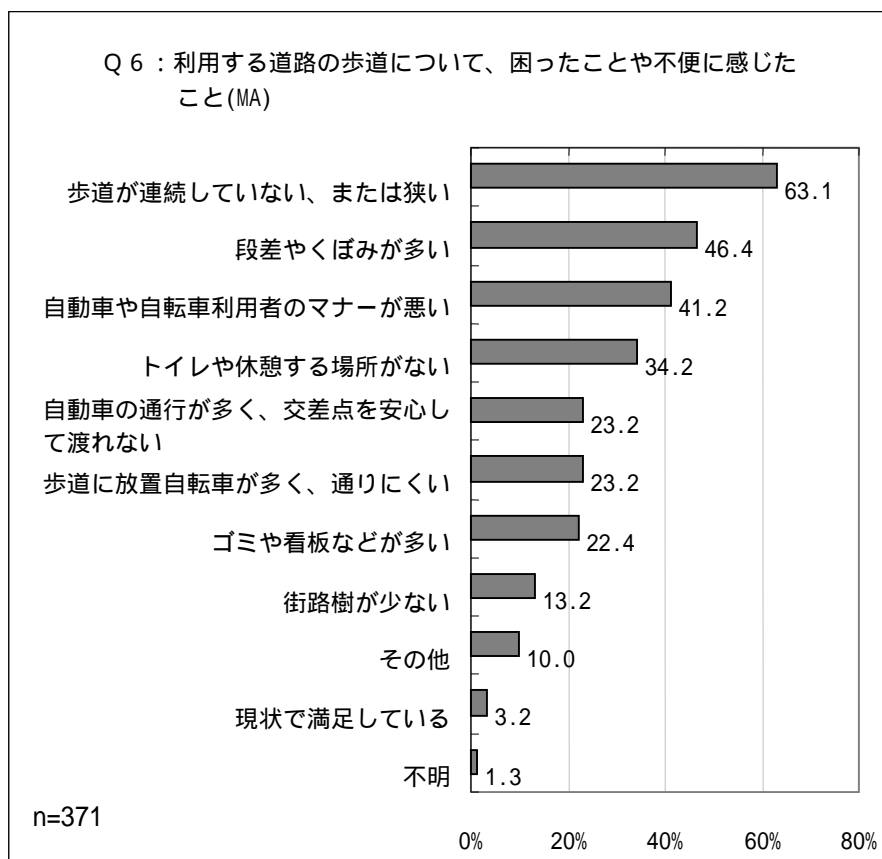
Q 5 : 利用する公園、県内の観光地等について、困ったことや不便に感じたことは

利用する公園、県内の観光地等で困ったことや不便に感じたことでは、最も多いのが「利用できるトイレが少なく、あっても汚れていて使えない」で、64.2%と半数を超えています。次いで「階段や段差が多く、高齢者や障害者等の移動が大変」(32.6%)、「公園や観光地の案内表示がわかりにくい」(31.0%)となっています。



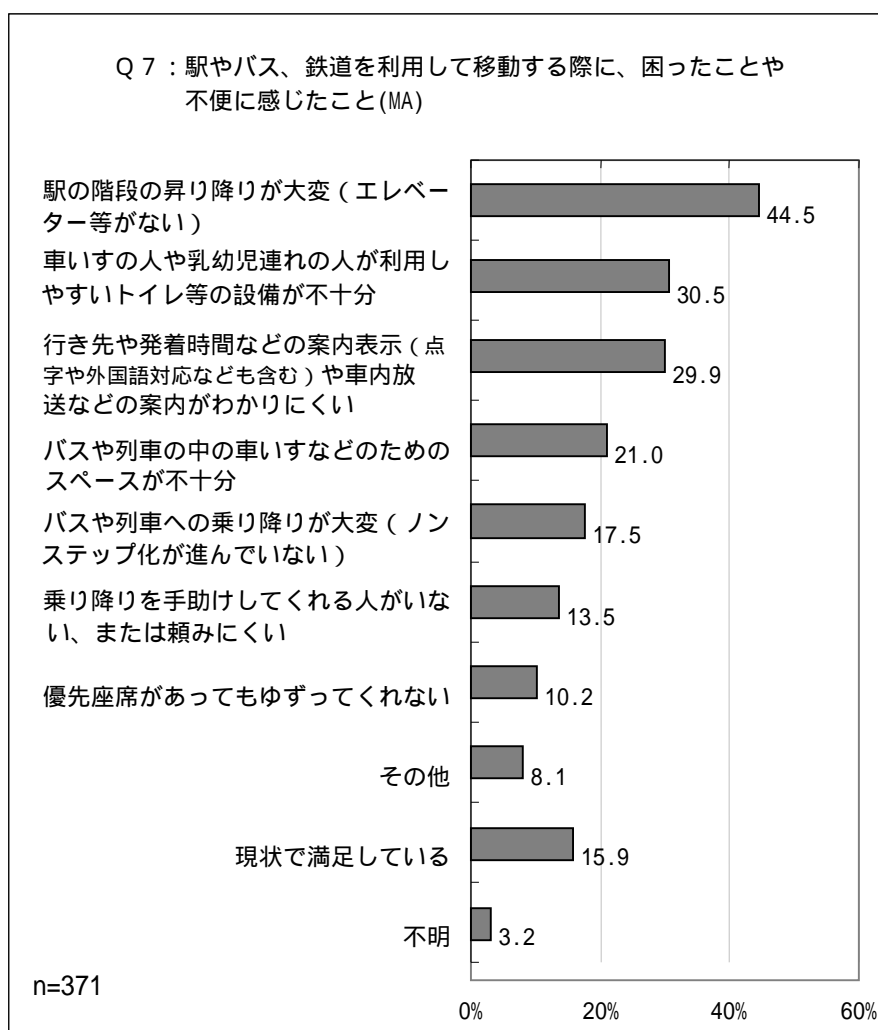
## Q 6 : 利用する道路の歩道について、困ったことや不便に感じたことは

利用する道路の歩道で困ったことや不便に感じたことでは、最も多いのが「歩道が連続していない、または狭い」で、63.1%と半数を超えている。次いで「段差やくぼみが多い」(46.4%)、「自動車や自転車利用のマナーが悪い」(41.2%)となっています。



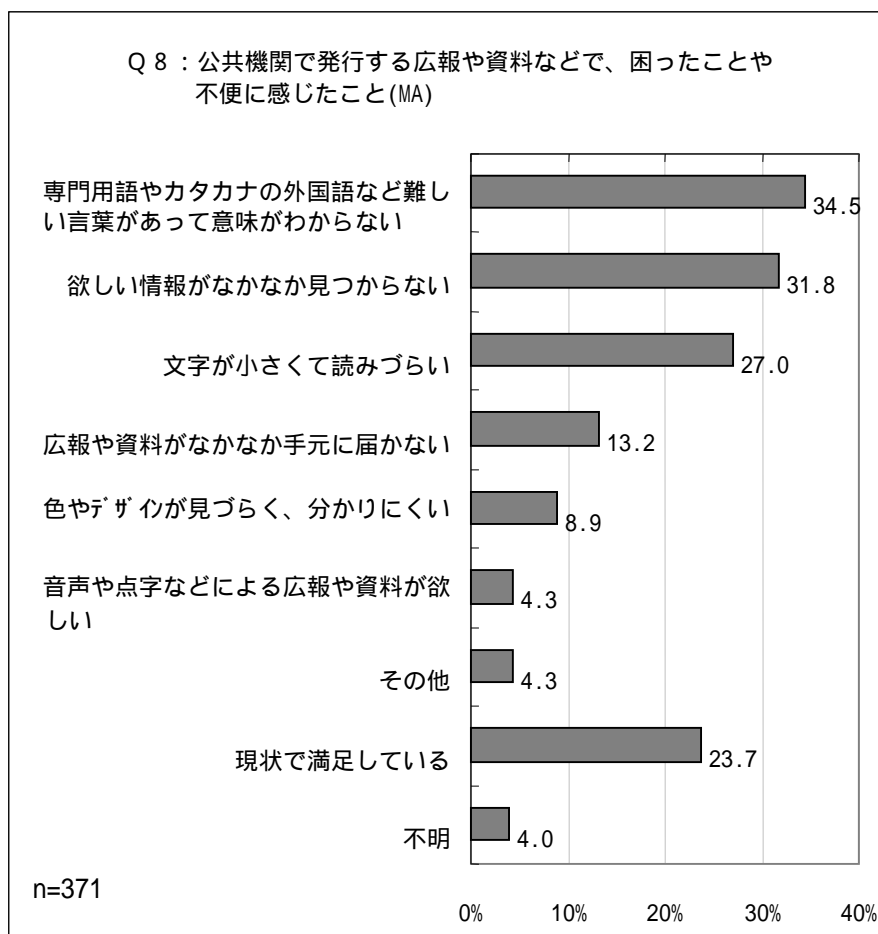
Q 7 : 駅やバス、鉄道を利用して移動する際に、困ったことや不便に感じたことは

駅やバス、鉄道を利用して移動する際に困ったことや不便に感じたことでは、最も多いのが「駅の階段の昇り降りが大変」(44.5%)で、次いで「車いすの人や乳幼児連れの人が利用しやすいトイレ等の設備が不十分」(30.5%)、「行き先や発着時間などの案内表示や車内放送などの案内が分かりにくい」(29.9%)となっています。



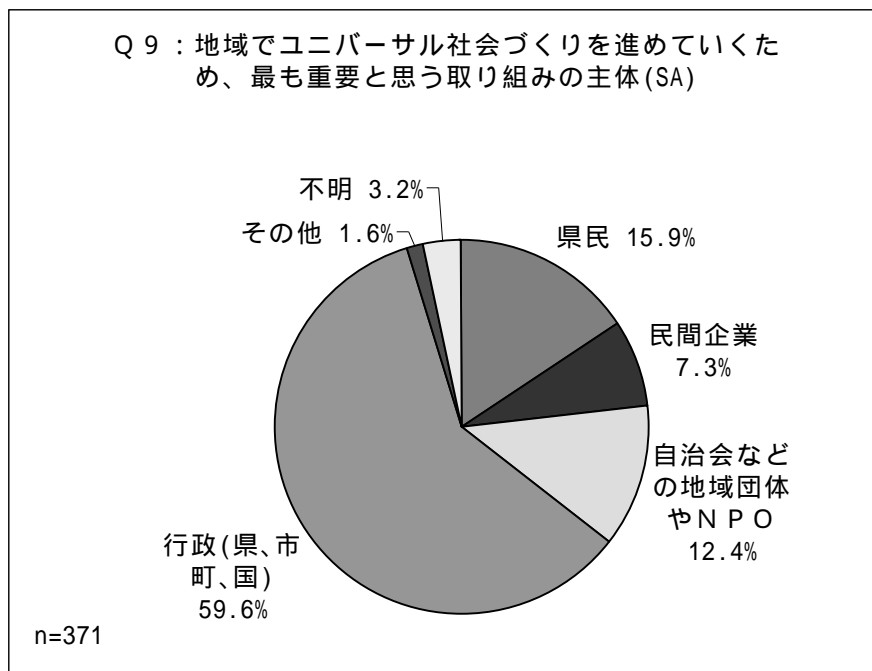
Q 8 : 公共機関で発行する広報や資料などで、困ったことや不便に感じたことは

公共機関で発行する広報や資料で困ったことや不便に感じたことでは、最も多いのが「専門用語やカタカナの外国語など難しい言葉があって意味がわからない」(34.5%)で、次いで「欲しい情報がなかなか見つからない」(31.8%)、「文字が小さくて読みづらい」(27.0%)となっています。



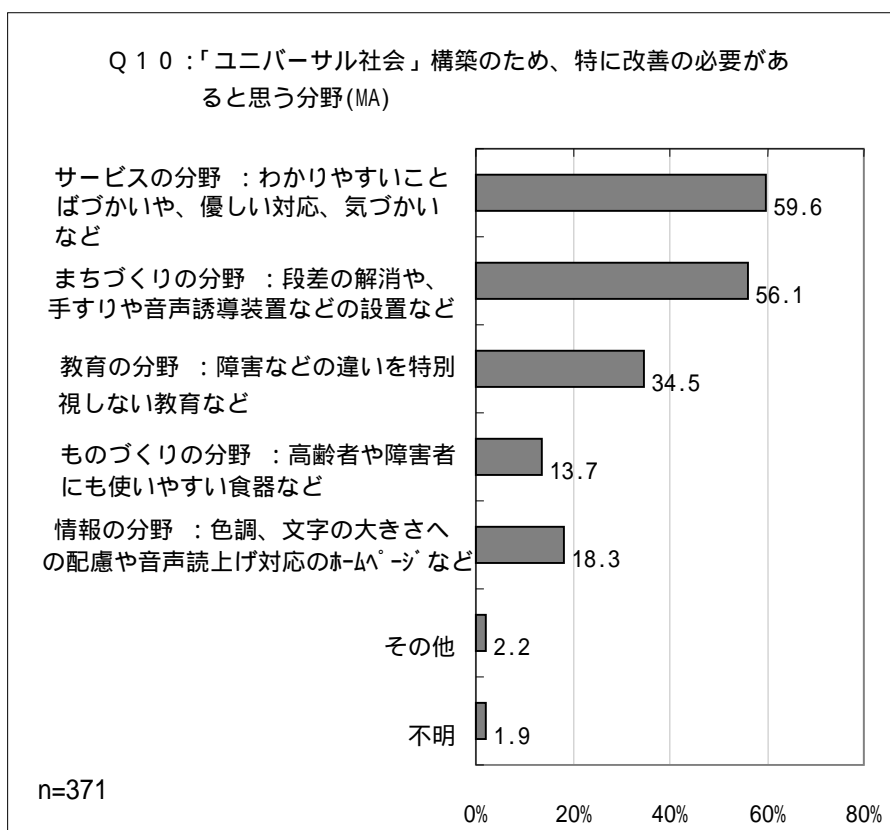
Q 9 : 地域でユニバーサル社会づくりを進めていくため、最も重要と思う取り組み主体は

地域でユニバーサル社会づくりを進めていくため、最も重要と思う取り組みの主体では、最も多いのが「行政（県、市町村、国）」(59.6%)で、次いで「県民」(15.9%)、「自治会などの地域団体やNPO」(12.4%)となっています。



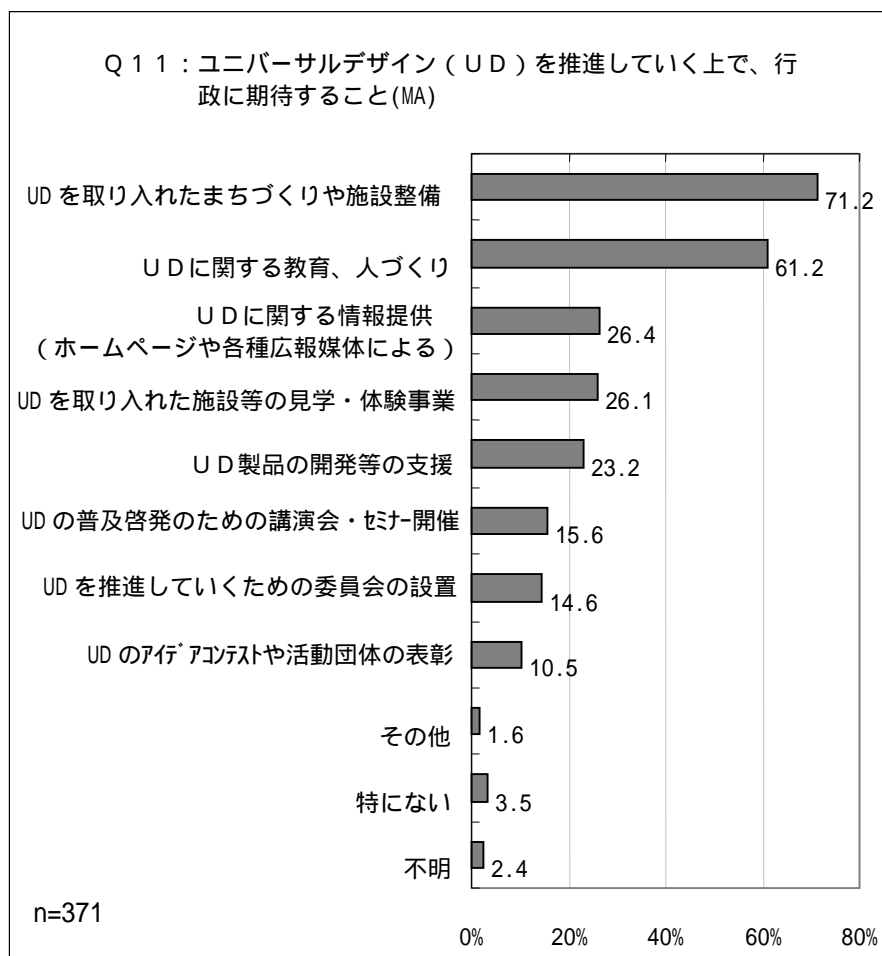
Q10：「ユニバーサル社会」構築のため、特に改善の必要があると思う分野は

ユニバーサル社会構築のために特に改善の必要があると思う分野では、最も多い「サービスの分野」(59.6%)と「まちづくりの分野」(56.1%)が半数を超え、次いで「教育の分野」(34.5%)となっています。



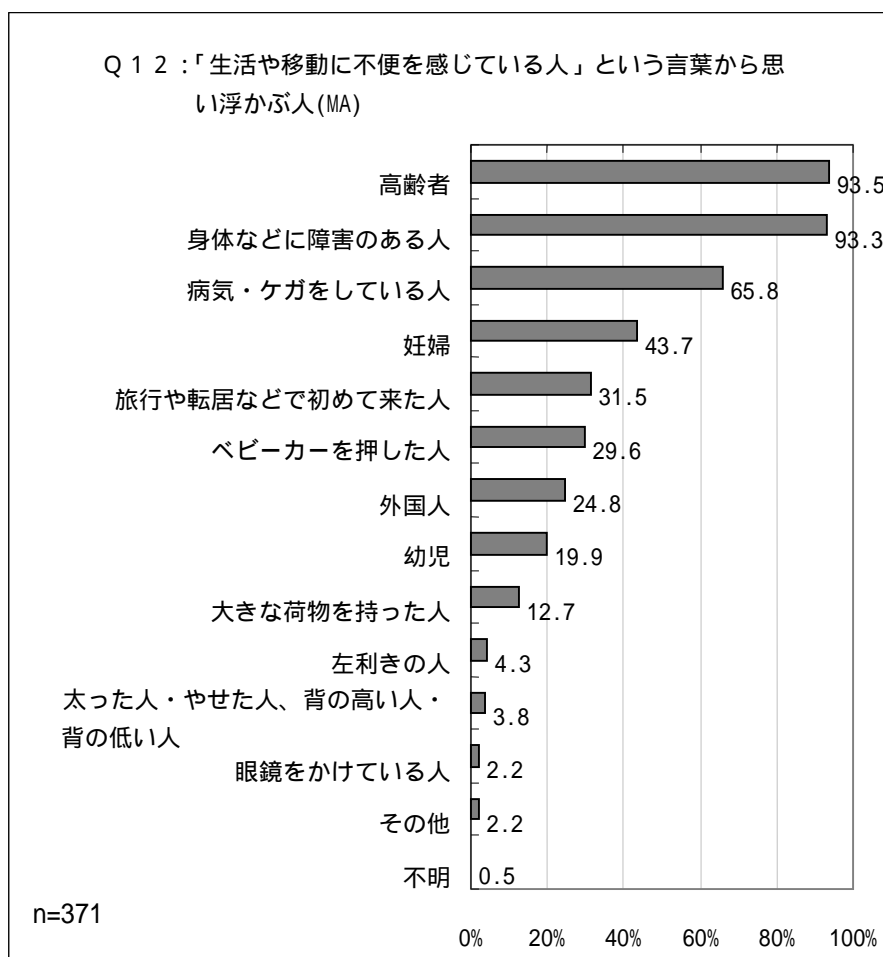
## Q 1 1 : ユニバーサルデザイン ( U D ) を推進していく上で、行政に期待することは

ユニバーサルデザインを推進していく上で、行政に期待することでは、最も多い「ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりや施設整備」(71.2%)と「ユニバーサルデザインに関する教育、人づくり」(61.2%)が半数を超えています。



Q 1 2 : 「生活や移動に不便を感じている人」という言葉から思い浮かぶ人は

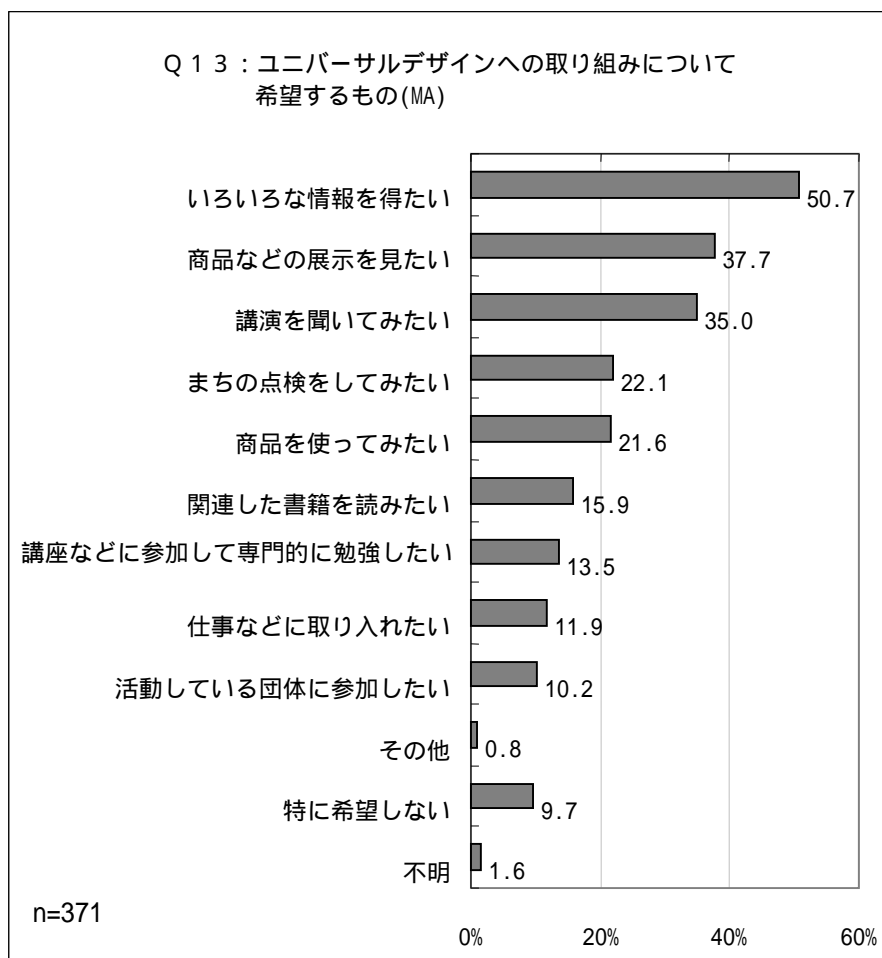
「生活や移動に不便を感じている人」という言葉から思い浮かぶ人では、「高齢者」(93.5%)、「身体などに障害のある人」(93.3%)が9割を超えています。





### Q 1 3 : ユニバーサルデザインへの取り組みについて、希望するもの

ユニバーサルデザインへの取り組みについて希望するものでは、最も多いのが「いろいろな情報を得たい」(50.7%)で、次いで「商品などの展示を見たい」(37.7%)、「講演を聞いてみたい」(35.0%)となっています。



## 主なご意見

（周知の必要性について）

- ユニバーサルデザインというものを世間に知ってもらうことが必要である。
- まず「ユニバーサルデザイン」という言葉を浸透させる。そのための情報発信が大切。

（意識、心の問題について）

- 県民の意識の変化を促していくことがよいと思う。
- 「思いやり」「いたわり」の心を持つことが必要である。

（取り組みについて）

- 官民一体となって県全体で取り組む必要がある。
- 障害者、高齢者、外国人など、実際に不都合を感じている人の意見を取り入れるべき。
- ハード（施設や道路等）とソフト（情報、人、教育等）の両面から取り組む必要がある。
- 財政的なことも考え、身近なところから取り組むのがよい。

（その他の意見、要望）

- 歩行者（車いすの人も含む）自転車、車が安全、快適に通行できる道路を造るべき。
- 高齢者や障害者や小さな子どもたちが安心して生活できる環境づくりが必要。
- ユニバーサルデザインコンテストを開催し、優秀なものを広める。
- 視野を広げるため、様々な情報提供や講演会の開催を望む。

など